

睡眠時無呼吸症候群と
聴力改善手術の実力は道内トップ。
I g A腎症にも新たな治療法

旭川医科大学附属病院 / 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授
原 測 保 明 氏



1982年旭川医科大学医学部卒業。88年札幌医科大学耳鼻咽喉科助手。91年～93年米国ニューヨーク州立大学バッファロー校留学。93年札幌医科大学講師を経て98年旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授就任。耳鼻咽喉科専門医

「研究と臨床は互いにフ
ィードバックするもので
なければならぬ」がモ
ットー。新しい治療法を
多く生み出し、研究の結
果を着実に臨床に生かし
ている。

例えば、診断が難しい
と言われる睡眠時無呼吸
症候群。国内外から高い
評価を得る、上気道の呼
吸生理学的研究が高い診
断力につながり、実力は

道内トップ。根治的な手
術のほか、睡眠中にマス
クをして機械で鼻から空
気を送り込むCPAPも
行っている。

また、同科発の新しい
治療法として注目を浴び
ているのが、特定疾患に
認定されているI g A腎
症への画期的な治療法。

「扁桃摘出とステロイドの
静注で効果が期待できる」
(原測保明教授)。扁桃粘

膜の免疫異常への研究か
ら考え出されたもので、
腎臓内科とさらにエビデ
ンスを積み重ねていく。
がん領域では、患者の
QOLを考慮した新しい
治療法を取り入れている。
「耳鼻咽喉科で実施してい
るのは当科のみ」と話す
咽がん、舌がんへのレ
ーザー治療、PDT（光
線力学療法。副作用がな
く、効果も高いという。
頭頸部がん、舌がんへ
は、なるべく機能保存が
できるよう、選択的動注
化学療法と放射線治療同
時併用を実施。「進行中の
がんでも効果がある」(原
測教授)とし、道内で行
っているのは、同科と北
大のみだという。

鼻のリンパ腫について
は、カテーテルでの抗が
ん剤注入と放射線療法と
の同時併用療法を行う。
全道から患者が集まって
おり、「日本でもっとも症
例数が多いのではないか」

と話す。下咽頭がんには、
遊離空腸による再建術、
舌がんには、前腕筋を使
った再建術も行っている。
難聴に関しては、聴力
改善手術の施設基準数を
越え、年間で約50例。人
工内耳導入は、30例を超
えた。道北、道東の患者
を一手に引き受けている
と言える。また、反復性
中耳炎に対するワクチン
療法に対する研究を進め
ているほか、最近では神
経疾患をもった子どもが
増えてきていることから、
小児科と連携して、小児
の音声・嚥下障害へのア
プローチを進めている。

原測教授は、「聴く、食
べるなど、人が最後まで
もっておきたい機能をい
かに残し、生かしていく
かを考えた診断、治療を
行っていきたい」と話す。
医局員の海外留学も推奨
しており、若い医師がさ
まざまな分野の新しい治
療法を持ち帰っている。

原測教授は、「聴く、食
べるなど、人が最後まで
もっておきたい機能をい
かに残し、生かしていく
かを考えた診断、治療を
行っていきたい」と話す。
医局員の海外留学も推奨
しており、若い医師がさ
まざまな分野の新しい治
療法を持ち帰っている。

◆大学病院データ◆

Data

<http://www.uchimc.mri.ac.jp/hospital>

旭川医科大学附属病院
耳鼻咽喉科診療内容

一般外来、アレルギー外来、滲出性中耳炎
外来、睡眠時無呼吸症候群外来、腫瘍外来、
扁桃外来、難聴外来、めまい外来

- 医療設備 / 耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般の機械など
- 外来診療日 / 月曜～金曜
- 外来診療受付時間 / 8:30～12:00、再診は予約制